

大志を育む



令和3年7月29日
(教職員向け)
教育委員会だより

No. 41

発行：北広島市教育委員会

アセスメント(実態把握)の力をつける

学校教育課 指導主事 石川 和男 (特別支援教育担当)

特別支援教育の専門性の一つとして、アセスメント(実態把握)の力は子ども一人ひとりの特性を理解し、適切な手だてを提案するために必要です。

アセスメントは、①子どもや保護者の面接(聞き取り)や行動観察(授業観察)、②心理・発達検査(知能検査や発達検査、社会性検査、読み書き検査等)をもとに、学習や生活で困っていることについてその背景を理解し、指導・支援の手だてを提案するために必要なものです。そして、それは「個別の教育支援計画」の中の「合理的配慮」(必要かつ適切な変更や便宜)について、保護者・本人と相談し、合意形成を進めていくための資料となります。

「特殊教育」と呼ばれていた時期、検査を勧めることは「レッテルを張られる」「特殊学級に行かされる」というネガティブな印象が強く、涙を流される保護者もいらっしゃいました。しかし、平成19年から特別支援教育へと考え方や捉え方が変わり、最近は「忘れ物が多い、漢字が書けない、怒るとすぐ手が出る」などの課題について、背景を知りどう対応したらよいかアドバイスがほしいので、検査を受けたいという保護者からの積極的な相談が増えています。アセスメントに対する保護者の意識の変化を感じます。子どもが楽しく笑顔で学校に通えるように、困っているときに適切な手だてを提案できるような専門性を高めることを目指したいと思います。

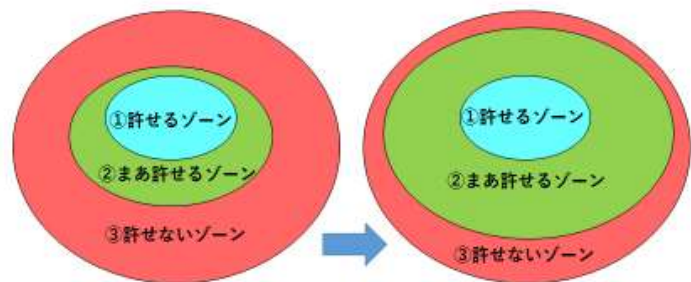
.....

アンガーマネジメント

「特別支援教育の専門性」以前に、人との関係性が大切になります。子ども(大人)の行動に苛立っても、上手にコントロールできることが必要です。

怒りのピークは6秒と言われており、その6秒の間に「反射的に言動をとらないこと」で失敗を避けられると言われます。

memo 「怒りの境界線を知ろう」



②の「まあ許せるゾーン」を広げること、③の許せないゾーンとの境界線をはっきりさせることが大切です。また、その基準を示しておくことも大切です。気分によって許せるゾーンが変わらないように気をつけましょう。引用：アンガーマネジメント実践講座(安藤俊介)



緑陽中学校区の取組



令和3年度の緑陽中学校区小中一貫教育の取組を始めるにあたり、4月2日（金）に緑陽中学校において、第1回目の小中合同会議を開催しました。

全体会では、事務局から、緑陽中学校区の小中一貫教育についてのこれまでの取組や今年度の推進計画について概要を説明し、その後、5つの部会に分かれて詳細についての打ち合わせを行いました。

【部会と主な取組内容】

学力向上部会	体力向上部会	児童生徒指導部会	研究部会	特別支援部会
学校改善プラン・NRT分析、共通指導事項、乗り入れ授業、等	体力向上プラン、新体力テスト、体力づくり、等	児童会生徒会交流、あいさつ運動、アウトメディアチャレンジ、等	共通研修内容、合同研修、交流研修、等	交流学习、合同宿泊、等

各部会とも、昨年度の実績を踏まえながら、今年度の取組について検討を行いました。感染症対策の関係で、実施・実践の可否について不確定な部分もありましたが、可能な限り、児童生徒のため協働して取り組んでいくことを確認しました。

リニューアル事業

《緑 de manabi》の実施に向けて

これまで緑ヶ丘小学校において、家族と一緒に学ぶ機会となっていた行事『かぞく de manabi』を、昨年度から「小中一貫の日」の取組として、小中一貫教育のねらいに重点を置いた事業にリニューアルすることになりました。今年度はプロジェクトチームを立ち上げ、第1回目の会議を6月29日（火）に行いました。今後、11月27日（土）の実施に向けて、アンケート等をもとに内容を検討し、企画・運営を行います。



小中一貫合同あいさつ運動

平成29年度から緑陽中学校生徒会・緑ヶ丘小学校児童会で取り組んでいる合同のあいさつ運動を、今年度も実施しました。

毎年、実施の仕方を検討し、取組方法の改善を図っています。今年度は、コロナ禍の中、あいさつ運動の中止も考えましたが、実施期間を縮小し、1学期は小学校前で、2学期は中学校前でそれぞれ1日だけ実施することとしました。

4月7日（水）は緑ヶ丘小学校前の交差点においてあいさつ運動を行いました。中学生は母校の前で、登校してくる小さな後輩達に優しく声を掛けていました。

